

2023 年度:こども園自己評価の報告書 しんでんこども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	・『人とつながり 生きる力の基礎を培う』という教育保育目標のもと、今年度は「一人一人の表現を大切にしながら、人と豊かに関わるための環境やあそびとは」をテーマに研究をすすめた。教育保育環境ガイドラインを使って園内公開保育をし、職員間で見合い考察した。毎年新任保育教諭が赴任する中、互いの保育を見ながら人的・物的環境を学び合う大切な機会となった。特に「ドキュメンテーション」をピックアップし、講師からの指導を元に遊びのポイントや保護者への伝え方を学び、保育に取り入れていった。
健康支援	・新型コロナウイルス感染症は 5 類となり、マスクを外す生活となったが、換気や手洗いの徹底など、感染症の流行を防ぐため引き続き対策を続けた。 ・外遊びの時間を十分に確保し、体を動かして遊ぶ経験を重視した。普段の保育の中で今まで経験してきた事を積み重ね、冬場もジョギングや固定遊具等にチャレンジする機会も持ち、体力向上に努めた。 ・身体計測の際に看護師が保健指導を行い、年齢に応じて健康に関心が持てる機会とした。
安全指導・危機管理	・全学年で 2 回の交通安全教室を実施した。11 月には、警察と市役所から来ていただき、園庭に模擬道路を作って交通ルールを学ぶ機会を持つことができた。(5 歳児のみ参加) ・避難訓練を毎月行い、そのうち 1 度は消防署職員の立ち合いのもと総合訓練を行った。7 月には保護者引き渡しの避難訓練を行い、保護者にも危機管理意識を持っていただく機会とした。 ・駐車場の混雑を避けるため、荷物の多い月曜日と雨天時に裏門を開放することで近隣からの苦情も減り、安全に登園することができた。
食育の推進	・園の畑で栽培活動を行った。6 月にエンドウ豆の収穫をし、豆ごはんにして一口ずつたべた。7 月にジャガイモ・ニンジン・タマネギ等の野菜を収穫し、5 歳児がクッキングでカレー作りをした。12 月のスライス焼き芋、1 月の大根煮など、収穫した野菜を園で食べることで、食への興味がより深くなった。 ・箸の持ち方の指導、三大栄養素を色別に分けてバランスよく食べることの大切さを伝えるなども保健指導の中に取り入れていった。
子育て支援（在園児および地域）	・保育参観やクラス懇談会の機会を持ち、子ども達の園での様子を見てもらったり保護者同士が関わる時間を持ったりすることができた。写真の掲示やボード等を用いて学年ごとに形式を決め、その日の活動が伝わるようにした。年 2～3 回の個人懇談に加え、必要に応じて話をする機会を持ち、保護者も安心して過ごせるよう努めた。 ・運動会の参観は無制限、生活発表会は各家庭 4 人と人数を大幅に増やしたが、保護者の協力によりスムーズに見ていただくことができた。

	また、子ども達の成長を保護者と共有することができた。 ・地域支援では「こぐまグループ」「3歳児の育ちの講座」「保育室であそぼー」等を行った。「いっしょにあそぼー」では在園児が手遊びやダンスを披露したり触れ合い遊びをしたりすることができた。地域向け掲示板の季節ごとの装飾を在園児が作ることも引き続き行った。 ・子育てサロン等で今後子ども達と交流できるよう、職員が参加した。
インクルーシブ教育保育	・アドバイザー研修の講師として8月に児童発達支援センターの高容康先生に指導を仰ぎ、支援を要する子ども理解や対応を学んだ。全体で学ぶことで、共通理解し子ども達とかかわることができた。 ・巡回相談を受け、こども理解に努めるとともに、会議で共通理解することで職員が同じ対応をしていけるようにした。
職員の資質の向上	・保育アドバイザー研修を3回、職場人権研修を3回実施し、講師を交えて保育のことについて意見を出し合ったり、人権について学習したりする機会を持った。また、『公立こども園自己評価』を行い、職員の質向上につなげた。
幼保こ小中の連携・接続	・新田南小学校の体験入学に4年ぶりに参加させてもらうことができ、違う小学校へ行く子どもも“小学校”のイメージや小学生へのあこがれの気持ちを持つことができた。 ・小学校と放課後こどもクラブと連携し、就学に向けて情報伝達を行うことができた。
評議員会	・評議員会を開催し、園での取り組みを伝えたり地域の現状を伝え合ったりすることができた。コロナ禍ではできなかった運動会や生活発表会の参観をしていただくことができ、子ども達や職員の頑張りに温かい言葉をくださった。また、いただいた意見を職員間で共有した。
その他	・参観の形などコロナ禍の前に戻したことで、我が子のクラス、学年だけでなくいろいろな子ども達の姿を保護者に見てもらうことができた。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
教育保育内容の充実	・子ども達の現状を把握し、3歳から5歳への育ちを意識しながらカリキュラムを見直し、教育保育内容の充実を図る。
教育保育内容の発信	・写真を使うなど保育内容についてわかりやすく伝える工夫等で保育の発信を考えていく。また、配信アプリやタブレットを活用し、日々の保育の発信も検討していく。

令和6年（2024年）3月31日

豊中市立 しんでんこども園

園長名 大橋 はつえ